

授業科目名	障害学研究	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	繁昌 成明	単位	2	年次	1

＝授業のテーマ及び到達目標＝

今日まで医療や心理臨床において、いわゆる芸術療法が1つの治療手段として実践的に用いられ、実証性における研究も進められている。中でも、音楽療法は、乳幼児から老人、障害や末期医療など、その特性をもって幅広い活動を行なっている。しかし、治療的に行なうには多くの基礎的な学習が必要不可欠である。ここでは、様々な障害に対する実践的な音楽療法へと深めていきたい。

＝履修の条件と学習の方法＝

基本的には、障害児者福祉論を基礎にして、秋学期の障害学研究へと深めていく方向で連続した受講が望ましい。福祉論では今後の音楽活動を実践する音楽家・音楽教員にとっての基礎知識を学ぶ。また、障害学研究では、治療・教育・福祉の領域で音楽を自己表現の一つの手段として活用する方向で学習する。従って、自分を知ること、語り、イメージすること、様々な表現するという心的体験を大切にする。心理臨床学の手法を取り入れ、演習方式で行なう。(受講生の数および意欲によっては一部変更する)

＝授業の概要＝

今日の障害学は、障害をかかえながら日常生活をおくる当事者の視点を抜きにしては語れない。人権の尊重はすべての人にとって基本的な権利であり、障害の軽重・有無に関係はない。授業ではすべての人が障害について身近なものであり日常の小さな気づきを事例として意識し、障害学の基本から具体的な障害について学ぶ。さらに、社会と文化の視点からも検討していくことになる。

＝授業計画＝

- 1回 芸術療法について
- 2回 音楽療法について
- 3回 カウンセリングの技法
- 4回 自分を知る
- 5回 感受性訓練
- 6回 治療プログラムについて
- 7回 個別療法
- 8回 集団療法
- 9回 事例検討（発達障害）
- 10回 事例検討（運動障害）
- 11回 事例検討（重複障害と病弱）
- 12回 事例検討（その他の障害）
- 13回 研究（具体的場面をイメージする）
- 14回 社会・文化の視点から見た障害学
- 15回 まとめ

＝テキスト（必携）＝

特になし

=参考書・参考資料（必携）=

授業時に配布するコピー

=成績評価の方法と評価の基準=

- ・レポート、試験：5割（期末レポートの提出）
- ・平常点：5割（体験学習での小レポートや感想文・自分の言葉で述べること）

=その他=